



聖歌集改訂ニュース

古今聖歌集に収録されている聖歌は、 本格版へ、どう引き継がれてゆくか？

2004年もあとわずかとなり、改訂古今聖歌集本格版発行予定の2006年まであと2年をきりました。各教会におかれましては、改訂古今聖歌集試用版や聖歌集改訂委員会よりリリースされた新しい聖歌を礼拝にてお使いいただいていることと思います。時は降臨節・クリスマス控えておりますが、どうぞこの中の聖歌もお使いいただけますよう、お願いいたします。

さて、皆様方よりお聞きするご意見の中で多いのに、なぜ今までの聖歌ではいけないのか、新しい聖歌にしなくてはならないのか、どうして古い聖歌を切り捨ててしまうのか、というものがあります。

現在の日本聖公会古今聖歌集は1959年、日本聖公会宣教100年を記念して祈禱書とともに発行されたものです。収録されています聖歌540曲のうち、作詩・作曲の年代を調べてみますと、1850年以前の作品が一番多いのに気づかされます。1959年の発行ですので、1950年代後半の聖歌が少ないのは当然としましても、現在から150年以上前の作品が一番多いことになります。

聖歌は時代背景をもとにつくられています。当時の教会の状況や宣教課題がその背景にあるのは当然といえます。1850年代前半の聖歌は当時の教会の状況を背景につくら

れていることになります。1850年代前半といえますと、日本では明治維新前の江戸時代末期、世界では植民地支配が繰り広げられていた時代になります。宣教の名のもとに、一部の国々が世界へその支配を繰り広げていった、後に反省を余儀なくされる時代です。

21世紀を迎えて、植民地とされた国々は独立し、それぞれの違いを大切にしていくなかで多様化の時代になりました。1850年代前半の聖歌が今日の教会の実情や宣教課題に合致しないのは当然といえましょう。

今回の聖歌集改訂作業は、原詩に忠実に作りあげていくことを基本に、歴史を超えて歌い継がれてきたよい聖歌を残し、言葉が古くてわかりにくいものや、差別語を修正、あるいは訳しなおし、19世紀・20世紀の時代背景をもつもの、使われなくなったものを思い切って削除する、そして新しいよいものを加える、こうした作業です。従って全く新しい聖歌集をつくりあげて、従来のを捨てるものではありません。

世界では戦乱が止むことなく、テロの脅威が世界を包んでいます。現在の教会の宣教のため、御心にかなう改訂古今聖歌集本格版が完成しますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

(司祭 パウロ 鈴木伸明)

本格改訂版聖歌集(仮称)目次

本格改訂版聖歌集(仮称)の「目次」が、以下の通り、ほぼ確定しました。『日本聖公会祈祷書』に準拠した礼拝用書としての聖歌集は、【聖歌 Hymn】の部と【式文用曲譜 Service Music】の部から構成されます。

【聖歌】の部では、朝夕の礼拝を軸とした「日々の礼拝」の聖歌、一年の期節に応じた「教会暦」の聖歌、聖餐式を始めとした「諸式」用の聖歌、期節や諸式にとらわれずに用いられる「一般」聖歌、また「キリスト者の生活」における聖歌、と配列されます。

【式文用曲譜】の部は、朝夕の礼拝や聖餐式を始め、祈祷書において「歌い、または唱える」と指示されている部分に対応した曲譜を用意します。単旋律(ブレインソング)と多声楽曲(ハーモニー)とに大別されるその内訳は、グレゴリアン・チャント、アングリカン・チャントの様式だけではなく、新しい様式、またそれら以外の様式の曲譜をも含めて、各項目において数種類の選択肢を収録する予定です。

また、多様な【索引】を用意し、特に礼拝の意図にふさわしい聖歌選択の助けとなる、便利な「聖餐式聖書日課対応聖歌番号表」を掲載すべく準備を進めています。

収録される聖歌(全565曲程度)の内訳は、『古今聖歌集』(1959年版)から300曲、『増補版』から30曲、『試用版』から85曲、翻訳・創作など新収録聖歌が150曲を見込んでいます。これに、式文用曲譜が約300曲ほど用意されます。

【序 文】(はじめに)

【凡 例】(この本の使い方)

【聖 歌】

日々の礼拝

朝の礼拝

昼の祈り

夕の礼拝

就寝前の祈り

教会暦

主 日

降臨節

降誕節

顕現節

大斎節前主日

大斎節

聖 週

復活節

昇天日

聖霊降臨日

三位一体主日

諸聖徒日

降臨節前主日

聖職按手節

収穫感謝

昇天前祈祷日

祝 日

主イエス命名の日

被献日

主イエス変容の日

聖マリヤへのみ告げの日

洗礼者聖ヨハネ誕生日

(使徒、福音記者、他、全祝日)

諸 式

聖餐式

入信の式(洗礼、堅信、初陪餐)

聖婚式

誕生感謝の祈り

葬送の式
 聖職按手式
 礼拝堂聖別式、

一 般

賛美と感謝
 神(三位一体)
 父なる神
 イエス・キリスト
 聖霊
 教会
 宣教
 キリスト者の責任
 神の国
 聖書

キリスト者の生活

信仰、希望、愛、奉獻、召命と旅、
 いやし、信仰告白、祈り、など

【礼拝式文用曲譜】

朝夕の礼拝、賛歌、嘆願、
 聖餐式
 聖職按手式
 大斎節中の礼拝
 (大斎始日、復活前主日、
 聖木曜日、聖金曜日、
 聖土曜日、聖油聖別)

頌栄

詩編(諸式に使用される詩編)

【索引】原詩初行索引、曲名索引、

作詩者・出典索引、
 作曲者・出典索引、
 聖句索引、事項索引、
 古今聖歌集対照表、
 聖餐式聖書日課対応聖歌番号表、

【著作権一覧】

<付録資料:『古今聖歌集』(0848年版)
 から本格版へ改訂される聖歌>

この付録資料は、現行『古今聖歌集』から、
 いったいどの曲が、どのような改訂を施され
 て(あるいは改訂せずに)、本格改訂聖歌集へ引
 き継がれてゆくのかを示したものです。これ
 は、1996年の日本聖公会総会に報告資料とし
 て提出された『古今聖歌集』評価チャート(『ガ
 イドブック・心は賛美に満ちて』198-203頁)の
 評価再確認でもあります。評価チャートには、
 聖歌集改訂作業を進める上で「指標」として
 の価値がありましたが、作業開始から10年と
 いう時の経過と世界情勢の変動、神学や宣教
 牧会の強調点の変化から、また、皆様から寄
 せられたご意見などによって、評価が改めら
 れたものが幾つもあります。付録の資料では、
 「改変なし」でそのままの訳詩を採用するもの
 (で表記)「僅かに改訂」を行った訳詩(で
 表記)「大幅な改訂を施した」訳詩(で表記)
 という区分けをし、加えて「曲を変更したもの」
 (で表記)を示した上で、若干のコメント
 を記しました。

また、本格版目次による項目分けも、付録
 資料(一覧表)に併記しています。

この一覧表は、『古今聖歌集』(1959年版)か
 ら“どの聖歌が落ちるか(採用されないか)”で
 はなく、本格改訂版聖歌集においては“どの
 聖歌を歌い継いでゆくのか”を明らかにした
 もので、今、これからの日本聖公会の宣教姿
 勢の一端を示すものでもあります。古今聖歌
 集の改訂の一例は、本号の添付楽譜及び解説
 をご参照ください。

広島で礼拝音楽担当者会開催

今年第10回を迎えた礼拝音楽担当者会は、10月8、9日の両日、神戸教区の広島復活教会を会場にお借りして開催されました。北海道教区からの出席は叶いませんでしたが、10教区から担当者23名、委員8名、聖公会出版1名に管区事務所スタッフ1名の総勢33名が集いました。

今回、委員会が重点を置いたのは、

本格版改訂聖歌集(題名未定)の全貌・
構成内容についての報告

現行古今聖歌集から本格版改訂聖歌集に
引継がれる聖歌について、なぜ、そして
どのように改訂されるか具体例で説明
他聖歌集からの翻訳聖歌、オリジナル
聖歌の紹介

でした。これらについては本紙に掲載、添付してあります。

以上の報告に先立ち、例年のように各教区からの礼拝音楽に関する活動、現況報告がありました。

各教区の報告から

沖縄教区 教区聖歌隊「ダビデ会」の誕生、
九州教区 8月の一泊教区宣教110年記念
フェスティバル「歌をもって主をほめたたえ
ましょう」に260名が参加、中部教区 礼拝
音楽の学びを深めるために、参与するすべて
の人にとっての研修会開催、東北教区 仙台
地区では研修会などに引き続き「歌による夕
の礼拝」を場所を変えて開催、毎回4～60名
参加、北海道教区 宣教130年記念礼拝に2泊
3日で道内から300人、試用版聖歌やチャント
を歌っての喜びの大礼拝、など。

これらはほんの一部ですが、今まで礼拝
音楽の普及に苦労の多かった教区でも新たな
動きが見られ、このような各教区での働きが

生き生きとした礼拝へと繋がっていくことが
確信できる報告でした。

担当者が始まった当初は“聖歌集の改訂”
を理解するために理念や作業方針についての
質疑、議論に多くの時間を費やしましたが、本
格版の輪郭がはっきりした今年は、担当者
の方々の改訂に対する理解も一層深まってい
ることが感じられました。それは昨年お願いし
た2曲の聖歌(A long lost lamb./ Almighty God, thy
word is cast)の訳詩に対する各教区の取り組み
にもよく表れていました。それらを皆で歌っ
たときに、さらに聖歌として深まっていくと
いう経験も共にしました。どれも力作ぞろい、
個性豊かなものが多く、ひとつの聖歌にまと
めあげる難しい作業に、委員会はうれし悲鳴
をあげています。

礼拝

朝夕の礼拝、就寝前の祈り、聖餐式と、短い
期間の中でもできるだけ十分な準備をもって
礼拝に臨みました。歌をもって一同が心と声
を合わせて献げられたことが、それぞれの場
での礼拝を豊かにしていく励みになればうれ
しいことです。

終わりに

担当者同士の交わりのための時間的な余裕
がないなどの反省点もありました。しかし、短
期間に多くのことを学びあうときをもちまし
た。そして、すっきりとして静かな聖堂で礼
拝、そのほかのセッションがもてましたこと
は大きなみ恵でした。場所を提供してくだ
さった復活教会の岡崎司祭、信徒の皆様にご
配慮とご協力を感謝いたします。

発行：聖歌集改訂委員会

ご意見・ご質問は日本聖公会管区事務所まで

〒162-0805 東京都新宿区矢来町65

TEL 03-5228-3171 FAX 03-5228-3175

hymnal.po@nssk.org

http://nssk.org/hymn/